

第2回環境基本計画 市民ワークショップの記録

1. ワークショップの目的

第三次環境基本計画の策定に向けたワークショップの第2回として、「生活環境」と「環境教育・環境学習」をテーマに、現状の課題整理(強みと弱み)、改善に向けたアイデア出しを行うワークショップを開催しました。

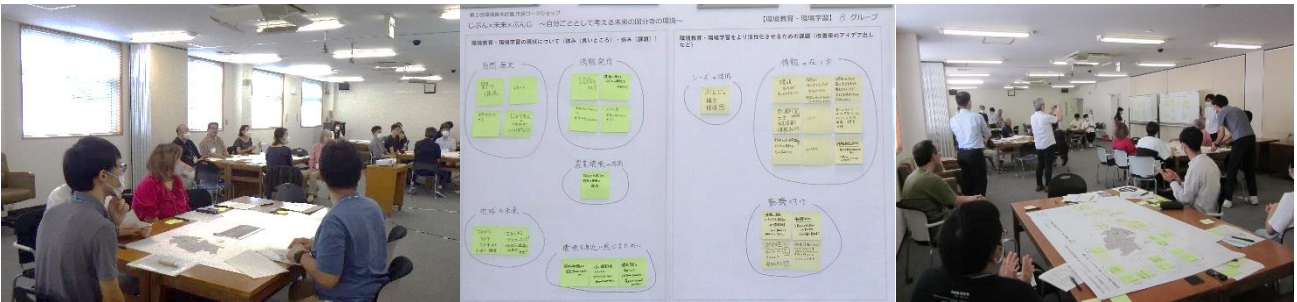
2. ワークショップの概要

日時: 令和5年10月1日(日)10:00~12:40

場所: 国分寺市役所1・2委員会室(第1庁舎3階)

参加者: 21名

事務局: 国分寺市まちづくり部まちづくり計画課



3. プログラム

(1)開会のあいさつ・企画説明

(2)ワークショップ

●話題提供(スライド)

- ・テーマ①「生活環境」
- ・テーマ②「環境教育・環境学習」

●グループワーク

- ・テーマ①「生活環境」
 - 【私たちが思う、国分寺の生活環境の「強み」と「弱み」】
 - 【未来の国分寺の生活環境をより良くするためのアイデア】
- ・テーマ②「環境教育・環境学習」
 - 【私たちが思う国分寺の環境教育・環境学習の「強み」と「弱み」】
 - 【環境教育・環境学習をより活性化させるためのアイデア】

●発表

(3)閉会のあいさつ

4. グループの発表内容

参加者 21 名が 5 グループに分かれ、グループごとに第 2 回のテーマ、「生活環境」「環境教育・環境学習」について、現状と課題等を議論しました。テーマ別にグループごとの発表内容を以下に整理します。

テーマ 1「生活環境」

A グループ

■ 現状の課題整理： 私たちが思う、国分寺の生活環境の「強み」と「弱み」

自然について

- 強み：緑地が豊かである。
 - ：植木屋さんが多い。
 - ：湧水がある。
 - ：自然環境に恵まれており、生活環境での大きな課題が少ないまちである。
 - ：伝鎌倉街道など文化財が保護されている。
- 弱み：もっと緑を維持する対策を強化する。

情報発信について

- 弱み：ホームページが見つらい。
 - ：イベントの情報が分からない。

住まいについて

- 強み：住宅街は静かである。
 - ：家の近くに畑で採れたての野菜を購入することができる。
- 弱み：通学路にある踏切が安全面で心配である。
 - ：道路が細いため、拡幅が必要である。
 - ：空き家が（今後増えていくので）心配である。

化学・技術について

- 弱み：電気自動車の充電設備を増やす。
 - ：PFOS・PFAS（有機フッ素化合物）について心配であり、市としての調査・対策が必要である。
 - ：脱炭素にもっと真剣に取り組むべき。

■ 改善策： 未来の国分寺の生活環境をより良くするためのアイデア

自然について

- ・ 減少する緑を市民参加で維持する。
- ・ 緑のまちとしてのイメージを強くするために街路樹を増やす。
- ・ 雨水浸透などグリーンインフラを積極的に展開する。

住まいについて

- ・ 独居の高齢者が多いのでごみの収集時に声掛けする。
- ・ 自治会を活性化させる。

- ・ 通学路の安全性の強化と道路の改修が必要である。

交通について

- ・ 交通の利便性向上のため、路線数や運行回数を増やし、循環バスの充実を図る。
- ・ 電気バス・EVごみ収集車を導入する。
- ・ 国分寺まつりやぶんぶんウォークなどでシェアサイクルを活用したイベントを行う。

化学・技術について

- ・ 生ごみを減らすためのコンポストを普及する。
- ・ フードロス対策など、生ごみを削減するべきである。
- ・ 太陽光パネルなど、再エネ設備導入に関する支援の情報を市民に周知する。

情報について

- ・ 生活環境に対する課題を市民に伝えるための見学会や情報を提供する。
- ・ 学ぶ機会を増やす。

B グループ

■ 現状の課題整理： 私たちが思う、国分寺の生活環境の「強み」と「弱み」

交通について

- 弱み：交通渋滞の緩和が必要である。
- ：交通安全ルールの徹底が必要である。
- その他：公共交通機関の利用を心掛けている。
- 夜遅くなくてもなるべく徒歩で帰宅する。

自然について

- 強み：緑が多く、野川の源流、湧水がある。
- ：平地や崖地など、多様な地形があり、縄文の遺跡など文化財がたくさんある。
- ：植木のまちであり、住宅の生け垣や花壇など緑が多い。
- 弱み：自然は多いが日常生活で自然に触れる機会や空間が少ない。
- ：駅前広場に緑が少なく、緑化が必要である。

ごみ・資源について

- その他：ごみ出しのルール、ごみの分別を守る。
- ：ごみ削減のため大容量の詰替えパックを使用している。

地産地消について

- 強み：地元の野菜のこくベジがあり、市内で消費できる（買い物、飲食店、その他サービスなど）。

その他

- ・バザーや清掃活動、毎月3回程の地元の「火の用心」活動への参加によって情報交換の場になっていた。

■ 改善策： 未来の国分寺の生活環境をより良くするためのアイデア

交通対策について

- ・ 公共工事の計画的な推進。道路の整備。
- ・ 地図の設置。
- ・ レンタサイクルを普及促進する。
- ・ 交通マナーを徹底する。
- ・ バスより小さな移動手段としてトゥクトゥク（側車付き軽二輪）や人力車などを導入する。
- ・ 車社会とならないよう、2次交通（拠点となる鉄道駅から観光地までの交通）の整備を推進する（シャトルバス、乗合タクシーなど）。

自然の取り入れについて

- ・ グリーンインフラを積極的に展開する。
- ・ 駅の広場や中心市街地の緑を整備する。
- ・ 人々が集い、みどりにふれることができる空間を創出する。

地産地消の推進について

- ・ 次世代への仕組み作り。
- ・ 農地の保全と宅地開発との整合を図る。
- ・ 「こくベジ」を守るため農地を保全する。

- ・ 「こくベジ」を子供たちに広める（学校など）。情報交換のための交流の場を作る。
- ・ 「こくベジ」の販売店を増やす。
- ・ ターゲットに合わせた情報発信をする（10代は学校、20～50代はデジタルチャンネル、60代～は紙媒体など。）。

ごみ対策

- ・ ごみ処理場の最適化。

世代交流

- ・ こどもから大人まで世代を超えた意見交換、学びの場づくり。

C グループ

■ 現状の課題整理： 私たちが思う、国分寺の生活環境の「強み」と「弱み」

PFOS、PFOA(有機フッ素化合物)について

- 弱み：市は、井戸水の水質検査を実施しているが、PFOS、PFOA（有機フッ素化合物）を長年摂取し続けることによる人体への蓄積の影響を把握できていない。
- ：学校給食の安全性提供が不透明なため、心配である。
 - ：防災時に利用される地下水は安全なのか不明である。
 - ：地下水を利用した農作物は安全なのか不明である。

まちづくりについて

- 弱み：古くからの区画のため、道幅が狭く、グリーンベルトが少ない。
- ：小中学生の登下校の通学路が危なくて心配である。
 - ：宅地化の影響で住宅が密になり、火災が燃え広がるリスクが上昇したり、景観が悪化している。
 - ：宅地化の進行に伴い緑地や農地が減少している。

その他

- ：コンポスト（たい肥化）で処理した生ごみを園芸や農園で使用している。
 - ：様々な容器を捨てるときに、残りの中身をふき取ってから洗っている。
 - ：遺伝子組み換えでない大豆を進んで利用している。
 - ：近い距離であれば自転車を使って移動している。
- 弱み：ごみ収集所がなくなり、日野市までもって持ち込んでいる。
- ：中学校給食は、市外事業者からお弁当が運搬されるが、事業者都合で提供されないリスクがある。

■ 改善策： 未来の国分寺の生活環境をより良くするためのアイデア

まちづくりについて

- ・ 建築物の条件として緑地と空間の確保を加える。
- ・ 他自治体では、防災用水に浄水器を入れた事例があるので参考にしてほしい。
- ・ 立山市には、新しい街並みをつくるスペースがあった。
- ・ 市は、宅地化によって火災リスクが上昇していることについて、農地の活用による防災を検討し、基本計画への反映をしてほしい。
- ・ 昔ながらの密なまちに、建築のルールとして、緑や空間の確保を図る取組を入れてほしい。
- ・ まちづくり計画の見直しが必要である。
- ・ 道幅、通学路などの道路の整備。緑地と農地を確保する。
- ・ 住宅リフォームの際は、二重サッシや、屋根と床の断熱性能を持たせる。
- ・ 国分寺跡地も、もう少しきれいになると良い。

PFOS、PFOA(有機フッ素化合物)について

- ・ PFOS、PFOA（有機フッ素化合物）の含まれた水が農業に利用されているとしたら、こくベジの安全性の検証も必要である。これが証明できることは、安全性の観点でブランド化につながると思う。
- ・ 市は、いつから市の水道水や地下水を摂取していると、人体に影響が出る濃度になるのかを

公表してほしい。

- ・ 大学との協働により、人体への影響について評価してほしい。
- ・ 市の政策的な判断で血液検査をして、安全性を証明すべきである。

その他学校給食について

- ・ 中学校給食を実現してほしい。

D グループ

■ 現状の課題整理： 私たちが思う、国分寺の生活環境の「強み」と「弱み」

取組について

- ： 駅までの移動は徒歩か自転車を利用している。
- ： 景観がよい所は SNS で発信し PR している。
- ： ごみの分別をしている。

食育について

- ： 「こくベジ」（野菜、果物）の直売所が増えていてよく利用している。
- 弱み： 中学校でも給食でもこくベジを利用できるようにしてほしい。

道路について

- 弱み： 都市基盤の道路が弱い。幹線道路やバス通りの道路が狭い。（歩行者や自転車も含め、利用しづらい。）
- ： 道路の緑化が進んでいない。（府中市や立川市などと比べて道路の整備に差がある）
- ： 野川の散歩道の整備が進んでいない。（小金井市と差がある）

緑について

- 強み： 宅地化が進んでいるが、農地、樹林地は多く公園が増えている。
- 弱み： 畑が大きく減ってきており、緑が少ない。
- ： 公園のような施設ではなく、フラッと立ち寄れるようなちょっとした緑が少ない（道路の緑化に関する内容である）

その他

- 弱み： 荒れた空き家がある。
- ： PFAS（有機フッ素化合物）の不安がある。
- ： はけの水の利用方法を考えてほしい。
- ： 自宅に古井戸があり、今はふさいでいるが地域の防火用井戸として利用できるとよい。
- ： 武蔵国分寺跡の整備（公園や緑化など）が進んでいない。
- ： カメムシが増加している。

■ 改善策： 未来の国分寺の生活環境をより良くするためのアイデア

ごみ・資源について

- ・ ごみの分別を分かりやすくする。
- ・ 金物回収業者は、公認制度を設けて安心して回収に出せるよう検討してほしい。
- ・ ごみの分別に協力する。
- ・ 紙パックやペットボトルを回収してくれるスーパーを増やし、リサイクルの促進につなげる。
- ・ ペットボトルではなくびんを活用するなどリサイクル効率を高めてほしい。

道路について

- ・ 建築物の条件として緑地と空間の確保を加える。
- ・ 道路の整備は、防災上不安なので都と協力して進める。
- ・ みどりの保全を視野に道路には、新しい建物を建てないようにする。

市民向け活動について

- ・ 弁天通り、高木通りの交差点や西町の富士山が見える小さい公園にポケットパークを整備し

緑地を増やす。

- ・ 小中学校で環境関連の授業数を増やす。
- ・ 市民が環境問題にどう思っているのか統計をとる。

水質・井戸

- ・ 個人の井戸を防災に活用できるようにする。
- ・ PFAS（有機フッ素化合物）の調査を国や都に求める。
- ・ むかしの井戸の水質について PFOS 及び PFOA（有機フッ素化合物）の国の暫定目標値超過の情報を市民に公表する。

畑・農地

- ・ 食育の観点から、給食に「こくベジ」を利用する。
- ・ 農家はイベントを開催し、こくベジの普及及び畑の保護のための後継者不足解消などにつなげる。
- ・ 空き地・空き家を利用した畑の共同運営をする。
- ・ 畑が宅地化される相続問題について相談できる場等を設けてほしい。

E グループ

■ 現状の課題整理： 私たちが思う、国分寺の生活環境の「強み」と「弱み」

自然について

- 強み：東京でありながら、自然が豊かなまちである。
- ：まちの中で、緑を目にすることが多い。
 - ：住んでいるマンションで、数年前から敷地内に花や木を植える活動を始めている。
- 弱み：緑が多く、鳥類も見かけるが、一方で緑が減ったと感じる。
- ：カラスが増え、それに伴いごみを散らかされることが増えた。

インフラについて

- 強み：国分寺は比較的高台が多いので、雨が降っても浸水することがなく安心である。
- ：無電柱化により、カラスなどの鳥のフンが少なくなり、きれいになった。
- 弱み：国分寺駅南口～大学、日吉町周辺など歩道が狭い。
- ：国分寺駅北口前の地下の自転車駐車場の前など、バス路線と自転車の走行の動線が重なっていて危険な所がある。

ごみについて

- 強み：国分寺市はごみの分別がかなり細かくされており、良い。
- ：日頃から買い物の際はエコバックを使用し、ビニール袋をもらわないようにしている。
- 弱み：ごみの分別はしっかりされているが、分別が細かすぎて面倒である。
- ：イベント（飲食）後のごみの分別が雑である。
 - ：分別が細かい割に、リチウム電池などの捨て方がわからないので難しい。

その他

- 弱み：喫煙所以外の場合でタバコを吸っている人が多い。

■ 改善策： 未来の国分寺の生活環境をより良くするためのアイデア

取り組むべきこと(主体の特定なし)

- ・ ボランティア精神だよりでは、持続的な対策にはならない。
- ・ 推し活などのマッチングのほか、団体や組織を通して人が継続的に集まり実施できる取組が必要である。

主体別の取り組むべきこと

- ・ インフラの老朽化により、ハードの対策は予算もかかり、難しい部分もある。
- ・ ソフトの対策で暫定的に対応し、長期的にはハードの対策を進める。
- ・ 自転車とバスの接触の危険性を解消するため、ガードマンを配置するなどのソフト対策だけでもやれるとよい。
- ・ ごみの分別に柔軟性を持たせ細かすぎないようにする。
- ・ ごみの分別に協力する。
- ・ 回収された資源物が何にリサイクルされたかを市報等で通知するとごみ分別の促進になる。
- ・ カラス被害対策として、前日にごみを出さないよう、また、ごみ捨て場の入れ物を蓋付きの物に変えたり、府中市のように収集時にボックスで回収する。

テーマ2「環境教育・環境学習」

A グループ

■ 現状の課題整理： 私たちが思う国分寺の環境教育・環境学習の「強み」と「弱み」

情報発信について

- ：ごみや二酸化炭素、騒音などの情報を発信している。
- 弱み：ホームページが見つらい。
- ：イベントの情報をお知らせしてほしい。
- ：子供が小さい時の方がイベント情報をもらえた。（大きくなると情報が来ない）

地域・学校について

- 弱み：清掃センターなどでの社会科見学を行っていない。
- ：学校を巻き込んだ取組をしてほしい。
- ：学校における環境問題の学習内容が見えない。

イベントについて

- 強み：国分寺まつり、ぶんぶんウォークなどと連携した啓発のイベントがある。
- 弱み：清掃センターの見学が行われていないのではないか。
- イベントに参加することでモノがもらえるなどのメリット少ない。
- 体験型のイベントが少ない。

■ 改善策： 環境教育・環境学習をより活性化させるためのアイデア

情報発信について

- ・ ホームページに市民参加イベントをまとめて紹介するコーナーを掲載する。
- ・ ホームページに年代別、環境問題の分野別などの学習カリキュラムを掲載する。

地域・学校について

- ・ 小学校の社会科見学（清掃センター、ごみ収集車等の見学）を授業に取り入れる。
- ・ 情報発信のため、清掃センターでのごみ処理の様子を映像化する。
- ・ 学校へ出前授業をし、子供達に環境について考えるようにする。
- ・ 自治会で地域活動をする。

イベントについて

- ・ 植樹会を開催する。
- ・ 市民中心のフリーマーケットを開催する。
- ・ 大人の社会科見学が必要である。
- ・ 国分寺まつりやぶんぶんウォークで環境に関連付けて、ポジティブなイベントを行っていくのが大事である。
- ・ 参加者に興味を持たせるため、イベントの参加賞として花の種（苗）などのプレゼントを配布したり、「こくベジお店大賞」を決めたりする。

B グループ

■ 現状の課題整理： 私たちが思う国分寺の環境教育・環境学習の「強み」と「弱み」

自然・歴史について

強み：野川の源流や姿見の池、縄文の遺跡など、国分寺市には自然や歴史がたくさんある。

情報発信について

弱み：SDGs（持続可能な開発目標）や環境の取組など情報発信が少ない。

：環境に関するイベントの範囲（対象者ごとに対応）を広げる。

農業環境の活用について

強み：国分寺市には畑が多く野菜や果物を栽培している。

地球環境の未来について

弱み：エネルギーやゼロカーボンについてもっと勉強する機会が必要である。

：これから30年後や50年後の環境の変化を予測することが必要である。

環境を身近に感じるために

弱み：環境学習をすることで生活がどのように変わっていくのか分からない。

：一言に環境学習といってもどういうテーマがあるのか分からない。

：いろいろな取組を行っているが、環境教育として根付いていない。

■ 改善策： 環境教育・環境学習をより活性化させるためのアイデア

情報のあり方

- ・ 環境ひろばをはじめ、環境や生きものに関するイベントの情報をアプリやインターネットを利用し情報発信していく。
- ・ 楽しみながら環境学習ができるイベント（生きものの捕獲、鑑賞、収穫体験など）を実施していく。
- ・ リモートなどを利用し、その場になくても情報を得られるようにすると参加者が限定されなくてよい。
- ・ 市内の小中学校でイベントの告知を広める。
- ・ まち全体が環境ランドのように、市内にテーマパークのような環境スポットを設ける。
- ・ 市、東京都、大学、市民活動団体と環境情報を共有するネットワークを構築する。
- ・ 未就学児や小学生たちへ環境教育することによって、親御さんなどの大人に伝わる。

動機付け

- ・ 環境活動、セミナーやマルシュ等に参加するとポイント（（仮）ポイ活ぶんじ）を獲得し、そのポイントを市内のお店で使えたり、こくベジと交換できるようにする。

シーズ(技術、ノウハウ、アイデアなど)の活用

- ・ ぶんじの縄文探偵団の開催。

C グループ

■ 現状の課題整理： 私たちが思う国分寺の環境教育・環境学習の「強み」と「弱み」

環境教育の場の保全について

強み： エックス山で自然体験活動が行われている。

： カブトムシの捕獲を通じた環境教育が行われている。

弱み： 日影山では、カブトムシ等の捕獲規制が掛かっているが、無視して捕獲する人がいる。
子どもではなく、大人が多い。

食育について

弱み： 中学校給食は、民間業者に委託しており、近年の物価高を背景とした経営難で給食の質の低下、倒産リスクの向上が生じている。

： 委託業者が市外にあり、市内の中学校へは冷えたお弁当が提供されている。

： 民間委託のため、アレルギー対策が難しい。

： 子どものなかには冷えたものを食べれない子もいたり、質や量が低下して、おなかをすかせた状態で授業を受ける子もいる。

： 小学校と中学校で食育の格差がある。

■ 改善策： 環境教育・環境学習をより活性化させるためのアイデア

環境教育の場の保全について

- ・ 夏の熱中症対策として公園を樹林化する。
- ・ クヌギ・コナラを保全する。
- ・ エックス山の活用を広げる。
- ・ アマモの再生活動を行う。
- ・ 市内の第九小学校のように、防災のポイントを教えるスタンプラリーを始めてはどうか。
- ・ 野川沿いの整備により、川遊びを学べるようにする。

食育について

- ・ 市は、食育増進の観点から、中学校に給食室を導入して校内配給を実現する、あるいは、給食センターを作る。しかし、中長期の人口構成を見据えると、人口減で建設のための資金調達が困難であることは理解している。
- ・ 一方で、校内に給食室があることは、災害時の配給に活用できるといった防災力向上にもつながるため、積極的な導入を求める。

農業について

- ・ 農業レクチャー付きのレンタル農園を増やす。
- ・ 農業の魅力を伝えるには、その場で料理を作って実食することが大切である。
- ・ 6次産業化を促進させ、農協の影響があるのであれば、それを受けないかたちで推進すればよい。

市に望むこと

- ・ 市の施設の社会見学を、教育委員会と協働で実施する。
- ・ 一年を通じて農業体験のプログラムを作る。
- ・ 高木を増やし昔に戻す。
- ・ ぶんぶんウォークなどのイベントに行政も入って盛り上げてほしい。

- ・ 人口減少に伴う土地利用の変化を見越した計画を望む。
- ・ 地の利が厳しい地域（西側の地域）に対するインフラ整備として、ぶんバスのルートを市役所周辺だけではなく、戸倉方面も通るようにしてほしい。

その他

- ・ 基本計画のなかでは、緑、防災、食を大きなテーマにする。
- ・ 魅力あるまちづくりにより、人を増やす。
- ・ 市の施設の社会見学や一年を通しての農業体験などを教育委員会と一緒に実施する。
- ・ 農業レクチャーが付いたレンタル農園を増やす。
- ・ 防災の観点、中長期の人口構成を見据え、給食センターを学校内に設置する。

D グループ

■ 現状の課題整理： 私たちが思う国分寺の環境教育・環境学習の「強み」と「弱み」

情報発信について

- 弱み：環境教育・学習の情報が入ってこない。
：主催者がどこ（市、東京都、PTAなど）で、どんな内容を行っているのかわからない。
：（環境に関する）情報は、親しか見ていないことも多い。

参加者の偏りについて

- 弱み：環境イベントでは、同年代（特に若者）の参加者が少なそうである。
：知らない人ばかりなので、休日にわざわざ参加する気にならない。

イメージについて

- 弱み：民間ボランティアのものと異なり、市が開催する事業は、堅そうなイメージがある。

環境教育・学習の実情について

- ：都民の森に参加しており、森林保全、木造建築物が増えた。
：コミュニティスクール推進事業の責任者を東京学芸大学の教授が務め、小学校と話し合いながら小学生3年生を対象に「ハケの自然の学習」を開催している。
：スマートフォンの活用や車で山など自然に行き、自ら勉強することができる。
：大人であれば、個人で奥多摩や山梨などに行き、自然に触れることができる。
弱み：公民館の活動から発展して「ハケの自然を守る会」が組織されたが、今後、若い参加者を集めたい。
：コミュニティスクール協議会が設定されていない小中学校があり、地域との連携が進んでいない。
：環境ひろば主催のシンポジウムなどのイベントでは、参加者の限定と固定化が多い。

■ 改善策： 環境教育・環境学習をより活性化させるためのアイデア

情報発信について

- ・ SNSを通じて環境情報を目に触れる機会を増やし、いかに話題性を高めるかが重要である。
- ・ 世代別に情報発信の内容や手段を変え、情報を得やすくする。

イベント開催について

- ・ 音楽などのアートと連携した環境フェスや環境まつり（年1回）を開催する。
- ・ SNSを利用した街頭トークやイベントなどを実施する。

ネットワーク等について

- ・ 自主グループや個人間の連携をもっと構築していき、SNSのグループラインなどで情報共有をしやすい環境を整備する。
- ・ ワークショップなどで出した意見を反映された実感ができるように取り組んでほしい。
- ・ 小さなお子さん、若いお母さん・お父さんが街角で賛同してはもらっているが、環境の活動が地域全体に広がっているように見えないため、その対策が必要である。

拠点

- ・ 小中学校の情報発信によって、コミュニティスクール事業を推進し、環境教育のリーダーの養成や環境の関心のある人を増やすための環境教育を進める。

- ・ 環境に関する課外学習を小中学校の授業に取り入れ、子どもから親へ環境への関心を促す。
- ・ 市役所に対する要望などは、市民活動などを通じて訴えていく。

居場所

- ・ 農工大の学生や子供たちが環境活動に参加するよう促す（実際にハケの自然活動について都立大の学生が卒論で取り上げたことがある。）。
- ・ 子供も参加できる多世代食堂を保育所の栄養士さんと協力して開催してほしい。
- ・ 食育の観点について、実際取り組んでいる街から学び、子供のアイデアを参考にする。

E グループ

■ 現状の課題整理： 私たちが思う国分寺の環境教育・環境学習の「強み」と「弱み」

情報発信について

弱み：環境教育・学習の情報が届かない。

環境教育・学習について

強み：ボランティア団体に所属しているとイベントに参加しやすく、地域に貢献できる。

：ボランティア団体に所属していることで、そうしたイベントに参加しやすくなる。

：小学4年生の授業でごみ処理工場の見学があって良かった。環境教育に関わったことで大人になってからも環境について考える機会が増える。

弱み：環境教育・学習に興味がないため、参加しない。

：生活の中での優先順位が低くメリットを感じない。

：生活レベルが高いような人しか参加できないのではないか。

：1人では参加しにくいと感じている。

：子供の頃から他市の学校等に通っていたため、国分寺市の活動に参加したことがない。

■ 改善策：環境教育・環境学習をより活性化させるためのアイデア

継続的な学びについて

- ・ 小学校から高校まで、小さい頃から継続的に環境教育や学習に触れることが大切である。
- ・ 小・中学校をターゲットにするならば、夏休みの宿題などに環境に関するものを出す。
- ・ 授業の一環で、校内の銀杏を拾い、それを地域の方に配るという取組をしている。銀杏の悪臭対策と拾ったものを再利用するという持続可能性を学ぶ良い機会である。
- ・ （座学で）学ぶだけで終わらず、それを実践（活動）につなげる仕組みを考える必要がある。

情報の届け方について

- ・ 気軽にバーチャル（仮想）空間でイベントに参加ができ、興味を持ったら実際の活動に参加するなどの、行動を起こすきっかけとなる仕組みが必要である。
- ・ 年代別などのターゲットに合わせて、様々なツールやコンテンツを活用して情報を届けることが必要である。
- ・ 今の時代、SNS上で、何が話題になるのかわからないため、SNSでの動画配信などの情報発信をすることが大切である。